



どうしていますか?あの取材から〇年

ベイ★キッズ発行スタートから12年。これまでに取材した方を追加取材!メッセージをいただきました。



ハマの海を想う会

9号で取材

遊びを通して身近な自然に興味関心を

「もっと遊ぼう!ハマの海」をスローガンに2010年に設立し、海辺の環境美化活動を行っています。2015年には高島水際線公園愛護会を起ち上げ、公園の干潟と潮入りの池の保全や生き物調査をやってきました。次世代を担う子どもたちを交えた活動が評価され2018年の国土交通大臣賞など様々な賞を受賞。代表の吉野生也さんは現在、日本釣振興会にて小学校の総合学習で「釣りを通じた環境学習」を実施しており、メンバーも釣り先生として活躍中。今年は横浜の小学校3校、川崎、三浦の小学校各1校で実施し、子どもたちに海や生き物、自然の素晴らしさを伝えています。



ハマの海を想う会



体験格差が教育現場で懸念されています。自然の少ない都市部でも身近な自然には沢山の生き物が息づいています。ハマ海会では遊びを通し身近な自然を知り体験してもらうことで、人や自然を思いやれるハマっ子の育成に貢献したいと思っています!!

HAHA CAFE(宮崎生花店)

17号で取材

創業150年記念アニバーサリーイベントを企画中!

老舗生花店を営む宮崎さん一家が花屋の一角を改修し「子育て応援カフェ」として2015年2月にオープンしましたが、コロナでカフェの営業をストップ。喫茶営業はしていないものの、店内でのマルシェ、コンサート、ワークショップなど、地域の大切な文化交流拠点として絶賛開店中です。宮崎生花店は2023年で創業150年。11月にはアニバーサリーイヤーを記念し、「まちとともに ひとつともに 宮崎生花店 150年の軌跡をたどる」と題し、150年を振り返る記念展示を行う予定です。また、2023年内のカフェ再開に向けて準備中です。



宮崎生花店 横浜市中区元町2-108

子育ての応援を始め、つながり作りの役にたつイベントを実施しています。花と共に暮らして知ってもらいたいです。カフェの再開もご期待ください。



農業生産者グループ 神七(カナセブン)

25号で取材

農業生産者の魅力を知って欲しい

神奈川の農業を盛り上げる生産者グループ「神七」。マルシェ出店やメンバーの強みを生かした加工品作り、農業視察ツアーなどを連携して行ってきました。コロナで加工品制作がストップし思うように活動できていませんでしたが、北仲マルシェへの出店などの活動が復活してきています。代表の苅部博之さんは、2023年日本農業賞の個人経営の部特別賞を受賞。横浜の都市農業の魅力と特徴が全国に伝わりました。神奈川の生産者はやり方や信念、経歴も様々。魅力的な農業者の姿を発信し、消費者とつながりを作る活動を続けていきます。



都市農業の魅力は鮮度と生産者が身近にいるということ。遠くに行かなくても農作物や生産者が近くにいる安心感をぜひ感じて欲しいです。

苅部さんの野菜直売所「FRESCO(フレスコ)」
横浜市保土ヶ谷区西谷町962(月水金午後2時~6時)

AppliQué(アプリケ)

27号で取材

捨てるにつくるを楽しくつなく

NPO法人森ノオト(横浜市青葉区)が2017年にスタートしたアップサイクル布小物プロジェクト。2020年からは寄付布を地域循環させるリユース手芸店「めぐる布市」として活動をしています。月に7日間だけ開店する「布市」で並ぶのは、様々な布地や手芸用品。自宅で大切に保管されていた布たちを新たな使い手につなぐことを通じてリユース人口を増やしたいと考えています。会場からインスタライブも実施しオンラインで注文もできます。今年はフジロックでも活動紹介・販売しました。象の鼻テラス(中区)での出張版布市も年に一回開催し、大好評です。



NPO法人森ノオト
AppliQué(アプリケ)



「やってみたい!」そんな気持ちの後押しするリーズナブルな価格とちょっと変わった品揃え。まるで蚤の市を訪れた時のようなワクワクに出会えます。

オーラルピース(株式会社トライフ)

28号で取材

横浜から宇宙へ!

28号「子どもの歯」特集に関連し、まちすきで「飲んでも大丈夫な口腔ケア剤」として紹介しました。代表の手島さんが家族の介護を機に寝たきりでうがいや歯磨きができない人向けに飲み込んでも大丈夫な歯磨きがあればと思ったのがきっかけ。介護の現場はもちろん、赤ちゃんや妊婦、登山時や災害時に役立つとして注目されています。障害者就労施設に販売代理店になってもらうことで、障害者の仕事を産む仕組みにもなっています。今後はアメリカでの販路を拓くため準備中です。取材から5年。水を節約できることからいまは宇宙でも使われています!



オーラルピース



本プロジェクトは10年前、障害児の親達が子ども達の経済的自立や親亡き後問題を自ら解決しようと設立、想いが宇宙に届きました。困難に屈せず皆で未来を!



川崎市子ども夢パーク

38号で取材

今年で20周年!

「子どもの権利」を体感できる施設

コロナ禍で子どもの居場所が制限される中、取材したのが川崎市子ども夢パーク(川崎市高津区)でした。2003年に「子どもの自由な発想で遊び、学び、つくり続ける施設」を基本理念としてオープンし、今年で20周年を迎えました。大きな土の山や茂み、工具スペースや水と泥で遊べる場所などがあります。2022年には、重江良樹監督により映画「ゆめパのじかん」として公開。NHKの密着番組「ドキュメント72時間」で取材されました。子どもたちが自らの判断で行動し、様々なことを感じていく「子どもの権利」から生まれた施設です。



子どもが7歳になったら、親になって同じように7歳。失敗してもいいんです。正しい親を頑張らずに、「ゆる親」でいきましょう。

NPO法人フリースペースたまりば
理事長
西野博之さん

川崎市子ども夢パーク
川崎市高津区下作延5丁目30番地1号



季節と暮らそう

秋のお届け便



種から育てよう

スイートピー



シチリア島が原産の一年草。5月頃咲く甘い香りの花が魅力的なマメ科のつる植物で、葉の付け根にある巻きひげを絡ませながら成長します。発芽適温は15℃~20℃なので、気温が落ち着く10月中旬から11月上旬に種播きします。あまり気温が高いとよく発芽しませんし、あまり遅いと冬までに根が張らず、春になってから開花までに大きくなりませんので播く時期は注意しましょう。植え替えを嫌うので、ポットに播くか、プランターや地面に20~30cm間隔で直接播きます。覆土は1cmほど。水はけのよい土に播くことが大切です。日当たりと風通しの良い場所で育てます。窒素肥料は与えず、リン酸とカリだけ施肥するのが良く咲かせるポイントです。

(緑の相談員・速水善浩)

マガジン32号(2019年4月発行)から横浜市子ども植物園さんにご協力いただきスタートした、季節の植物を紹介するコーナーです。

*園内で開催している子ども向けイベントをベイ★キッズLINEでお知らせ。LINE登録は4面を見てね。



-Message-

創刊50号おめでとうございます!毎号、植物に興味を持っていただけるよう、「わかりやすく」をモットーに発信させていただいておりますがいかがでしょうか?コラムがお子様と一緒に楽しむ「植物ライフ」のきっかけになれば幸いです!

【問い合わせ】横浜市子ども植物園 入園無料
南区六ツ川3-122 ☎045-741-1015
開園時間9:00~16:30

